

# ちよつとした不注意が招く

## 交通事故



大館市の運転免許保有者数は8年12月末現在で、約34,300人となっています。これは16歳以上のかたの実に8割にのぼります。また、自動車保有台数は8年3月末現在で、約4万台と1世帯当たり1.7台の車を所有している計算になります。このような車社会となった今、交通事故は他人ごとではありません。一歩外に出れば私たちは交通社会の一員です。一人ひとりが社会的責任を自覚して行動することが求められています。

### 自動車

#### 安全運転は ドライバーの義務

追突事故は、特に混み合う交差点や、幹線道路と他の道路との信号のない合流地点付近に集中しています。朝の出勤時など、急ぐ気持ちを理解できませんが、車間距離を詰めたり、一台、二台追い越したりしたところで、到着時間はさほど変わりません。それよりもそこに潜む危険性を考えてみてはいかがでしょうか。前方不注意も大きな事故原因になります。ほんやり運転は絶対禁物です。走行中は前の車や、さらにその前の車の動きに十分注意を払うとともに、横断歩道、交差点付近では、カーステレオやライターなどの操作を控えます。また、走行中の携帯電話の使用は絶対にやめましょう。出会い頭の衝突事故の大半は信号のない、いつも通り慣れた交通量の比較的小さい交差点で起きています。「大丈夫だろう」ではな

く「危険かもしれない」という意識が大切です。

#### シートベルトは命づな

時速四十キロでも事故の衝撃は体重のおよそ三十倍にもなります。自力で支えられるのは時速七キロ、体重の二から三倍くらいが限界。衝突の一瞬、命を守るのはシートベルトだけです。「違反になるから」というのではなく、自分の安全のために、乗っている人すべてが必ずシートベルトを締めてください。小さい子供には、専用のチャイルドシートを使用しましょう。

#### 歩行者を守る

生活道路やスクールゾーンなどでは高齢者の直前横断や子どもの飛び出しなどの現象が多く見られます。子どもは、危険だと認識する距離が大人より短いといわれています。車に気付いていても飛び出してくることがあります。道路では、歩行者優先だという認識を持って運転しましょう。

### 歩行者

青信号でも  
安全では  
ありません

ドライバーだけでなく、歩行者も交通ルールを守り、事故に遭わない注意が必要です。

車の直前直後からの横断は非常に危険です。特にドライバーから見て対向車の直後から渡る歩行者は発見しにくいものです。また、夜は自分を見ることが安全にながります。夜間歩行中の事故は高齢者に多いのが特徴です。できるだけ黒っぽい服装を避け、目立つ色の服装を心がけましょう。夜光反射材を身につけると、黒っぽい服装の時よりも三倍以上の距離からでも見えるといわれています。横断歩道であっても渡り終えるまでしっかり安全確認をしましょう。横断後半の事故は以外に多いものです。



信号が青であっても安全が保障されているわけではありません。ドライバーが見落としや勘違いがあると、それは事故につながります。自分自身が安全であるか、まわりの車の動きに十分注意しながら横断することが大切です。